

# VMware View Client 管理ガイド

VMware View Client for Linux 4.0

---

エンド ユーザーは VMware® View™ Client を使用することで仮想デスクトップにアクセスできます。View Client はコマンド ライン オプションを使用して構成できます。また、サーバ情報を構成して、ユーザーがサーバを改ざんできないようにすることもできます。

複数の構成オプションを設定する場合は、構成オプションをテキスト ファイルに記述し、`--file` オプションを使用してそのファイルを参照できます。テキスト ファイルを使用すると、構成をすばやく更新することもできます。オプションが設定されていない場合、View Client は接続に関するすべての情報を入力するように要求するメッセージを表示します。

## コマンドライン オプション

ここでは、View Client のすべてのコマンドライン オプションについて説明します。

### 構成ファイルの使用

指定した構成ファイルを使用して、View Client を起動します。テキスト ファイルを使用して構成オプションを設定できるので、View Client の起動や、構成の更新の管理を簡単に行うことができます。

```
-f, --file=<file path>
```

<file path> は、コマンド ライン引数を含むファイルへのパスです。例：

```
vmware-view --file=./file/config
```

### コネクション ブローカーの使用

View Client の起動時に、View Connection Server との接続を確立します。

```
-s, --serverURL=<broker URL>
```

<broker URL> は、View Connection Server の URL です。例：

```
vmware-view --serverURL=https://view.yourcompany.com
```

### ユーザー名の指定

View Client の起動時に使用するユーザー名を指定します。

```
-u, --userName=<user name>
```

例：

```
vmware-view --userName=jdoe
```

## パスワードの指定

View Client の起動時に使用するパスワードを指定します。

`-p, --password=<password>`

例：

```
vmware-view --password=secret001
```

パスワード引数としてハイフンのみを渡した場合 (`--password=-`)、パスワードは `stdin` から読み取られます。このようにすると、パスワードをプログラムで指定できます。

`vmware-view` などのコマンドライン プログラムでは、特殊文字 (`$`、`!`、`?` など) がシェルによって解釈されないように、特殊文字をエスケープする必要があります。

## ドメイン名の指定

View Client の起動時のドメインを指定します。

`-d, --domainName=<domain name>`

例：

```
vmware-view --domainName=companydomain
```

## デスクトップの指定

View Client 用に使用する特定のリモート デスクトップを指定します。

`-n, --desktopName=<desktop name>`

例：

```
vmware-view --desktopName=WindowsXPDesktop
```

## 非対話モードの使用

非対話モードでは、コマンドラインで指定されている画面がスキップされます。たとえば、サーバ、ユーザー名、パスワード、およびデスクトップがコマンドラインで指定されている場合、View Client は起動すると指定されているデスクトップに直接接続します。必要のない手順がエンド ユーザーに対して表示されないようにするには、このオプションを使用します。

`-q, --nonInteractive`

例：

```
vmware-view --nonInteractive
```

## フルスクリーンモードの使用

フルスクリーンモードではホストオペレーティングシステムは表示されず、View Client がフルスクリーンの背景とともに表示されます。シンクライアントのディスプレイに View Client のみを表示するには、このオプションを使用します。

**注意** このオプションでは、View Client のユーザー インターフェイスのみにフルスクリーンモードが設定されます。デスクトップセッションの画面モードには影響しません。

`--fullscreen`

例：

```
vmware-view --fullscreen
```

## フルスクリーンモードでの背景イメージの指定

背景イメージを設定します。これによりホスト オペレーティングシステムは表示されなくなり、View Client がフルスクリーンの背景とともに表示されます。イメージはモニタに合わせて伸縮されます。

**-b, --background=<image>**

<image> は、背景イメージ ファイルのパスです。サポートされるイメージ ファイルの種類はシステムに依存します。例：

```
vmware-view --background=./view/background.png
```

## キーボード グラブの無効化

View Client によるキーボード制御のグラブを停止し、ウィンドウ マネージャのキー バインドを保持します。

**-K, --keep-wm-bindings**

例：

```
vmware-view --keep-wm-bindings
```

## MMR ライブラリの場所の指定

MMR ライブラリのパスを指定します。

**-m, --mmrPath=<mmr directory>**

例：

```
vmware-view --mmrpath=/usr/lib/altmmr
```

## rdesktop オプションの指定

rdesktop アプリケーションに渡すオプションを指定します。

**--rdesktopOptions=<rdesktop options>**

例：

```
vmware-view --rdesktopOptions="-f -k en-gb -m"
```

rdesktop でリダイレクトするローカル デバイスは、**--redirect** オプションを使用して指定できます。[「リモート デスクトップへのデバイスの転送」](#)を参照してください。

## リモート デスクトップへのデバイスの転送

リモート デスクトップにローカル デバイスをリダイレクトします。**--redirect** に渡すものはすべて、rdesktop の **-r** オプションに直接渡されます。この機能は、rdesktop によってサポートされるデバイスに限定されます。詳細については、rdesktop のドキュメントを参照してください。

**-r, --redirect=<device info>**

<device info> は、rdesktop の **-r** オプションに渡す必要のあるデバイス情報です。例：

```
vmware-view --redirect=lspci
```

設定する各 rdesktop デバイス オプションに対応する複数のデバイス オプションを、1 つのコマンドで設定できます。例：

```
vmware-view --redirect=lspci --redirect=sound:off
```

**--usb** オプションを使用すると、リモート デスクトップにローカル USB デバイスをリダイレクトできます。4 ページの [「リモート デスクトップへの USB デバイスのリダイレクト」](#)を参照してください。

## リモート デスクトップへの USB デバイスのリダイレクト

USB リダイレクト コマンド (`vmware-view-usb`) をコマンド ラインから呼び出して制御することによって、リモート デスクトップにローカル USB デバイスをリダイレクトします。

`--usb=<usb opt>`

`<usb opt>` は、`vmware-view-usb` の `-o` オプションに渡されるオプションです。次の例は、トレースレベルのログをオンにします。

```
vmware-view --usb=log:trace
```

設定する各 `vmware-view-usb` オプションに対して `--usb` オプションの複数のインスタンスを指定できます。次の例は、デバッグレベルのログをオンにして、IDによって指定されたデバイスを除外します。

```
vmware-view --usb=log:debug --usb=exid:vid0012pid0034
```

`--usb` オプションと一緒に使用できるオプションの詳細については、「[USB リダイレクト オプション](#)」を参照してください。

## USB リダイレクト オプション

表 1 は、`vmware-view` コマンドの `--usb` オプションの引数として指定できる USB リダイレクト オプションを示しています。`vmware-view` コマンドでは、USB リダイレクト コマンド (`vmware-view-usb`) を実行するときにこれらのオプションを使用します。

表 1 USB リダイレクト オプション

オプション	説明
<code>disable-boot-fw</code>	USB ブート デバイスの転送を無効にします。デフォルトでは、検出が無効であり、デバイスは転送されません。
<code>ex:&lt;devname1&gt;[,&lt;devname2&gt;]...</code>	指定されたデバイスのリストを転送対象から除外します。例： <code>vmware-view --usb=ex:"flash 1"</code>
<code>exfa:&lt;devfamilyname1&gt;[,&lt;devfamilyname2&gt;]...</code>	指定されたデバイス ファミリのリストを転送対象から除外します。例： <code>vmware-view --usb=exfa:storage</code>
<code>exid:&lt;devid1&gt;[,&lt;devid2&gt;]...</code>	ID (10 進形式の、ベンダ ID と製品 ID を組み合わせた値) によって指定されたデバイスのリストを転送対象から除外します。例： <code>vmware-view --usb=exid:vid1123pid5813</code>
<code>expt:&lt;devpath1&gt;[,&lt;devpath2&gt;]...</code>	パス (10 進形式の、バス値とポート値を組み合わせた値) によって指定されたデバイスのリストを転送対象から除外します。例： <code>vmware-view --usb=expt:bus01port04,bus05port03</code>
<code>in:&lt;devname1&gt;[,&lt;devname2&gt;]...</code>	指定されたデバイスのリストを転送対象に追加します。例： <code>vmware-view --usb=in:"flash 1"</code>
<code>infa:&lt;devfamilyname1&gt;[,&lt;devfamilyname2&gt;]...</code>	指定されたデバイス ファミリのリストを転送対象に追加します。例： <code>vmware-view --usb=infa:storage</code>
<code>inid:&lt;devid1&gt;[,&lt;devid2&gt;]...</code>	ID (10 進形式の、ベンダ ID と製品 ID を組み合わせた値) によって指定されたデバイスのリストを転送対象に追加します。例： <code>vmware-view --usb=inid:vid2718pid2818</code>

表 1 USB リダイレクト オプション (続き)

オプション	説明
<code>inpt:&lt;devpath1&gt;[,&lt;devpath2&gt;]...</code>	パス (10 進形式の、バス値とポート値を組み合わせた値) によって指定されたデバイスのリストを転送対象に追加します。例： <code>vmware-view --usb=expt:bus03port01,bus04port02</code>
<code>log:{debug error info trace}</code>	<code>vmware-view-usb</code> のログレベルを指定します。ログレベルは、詳しいものから順に、 <code>trace</code> 、 <code>debug</code> 、 <code>info</code> (デフォルト)、 <code>error</code> です。ログファイル ( <code>backendLog.txt</code> ) は、 <code>vmware-view-usb</code> の実行可能ファイルが配置されているディレクトリに書き込まれます。例： <code>vmware-view --usb=log:error</code>

デバイスを対象に追加または除外するときの優先順位は次のとおりです。

**expt > inpt > ex > in > exid > inid > exfa > infa**

次の例は、ID によって指定された 1 つのデバイスを除くすべてのストレージファミリ デバイスを除外します。

```
vmware-view --usb=exfa:storage --usb=inid:vid1812pid1492
```

## 標準的な構成

ここでは、オプションを組み合わせる特定の動作を実現する方法の例を示します。

### フルスクリーン シンクライアント

この例では、シンクライアントのプロカーを事前に構成し、シンクライアントのホストオペレーティングシステムを非表示にして、背景に会社のロゴを表示します。また、不必要なログイン画面をクライアントがスキップするようにします。

使用するオプション：

- `--serverURL=<broker URL>`
- `--background=<image>`
- `--nonInteractive`

例：

```
vmware-view --serverURL=https://view.yourcompany.com --background=./view/background.png
--nonInteractive
```

### フルスクリーン キオスク

この例のシンクライアントは、指定されたデスクトップに、指定されたユーザー名、パスワード、ドメインを使用して自動的にログインします。クライアントは、起動されると、指定された認証情報で接続サーバーにログインし、指定されたデスクトップに接続します。

使用するオプション：

- `--serverURL=<broker URL>`
- `--desktopName=<desktop name>`
- `--userName=<user name>`
- `--password=<password>`
- `--domainName=<domain name>`
- `--nonInteractive`

例：

```
vmware-view --serverURL=https://view.yourcompany.com userName=kioskuser --password=xyz  
--domainName=companydomain --desktopName=kioskXPdesktop --nonInteractive
```

## サーバ情報のみのウィンドウ モード

この例では、View Client などの複数のアプリケーションにシンクライアントを使用します。サーバのみを指定し、どの画面もスキップしません。

使用するオプション：

- `--serverURL=<broker URL>`

例：

```
vmware-view --serverURL=https://view.yourcompany.com
```

---

本書に関するコメントがございましたら、以下のアドレスにご連絡ください。 [docfeedback@vmware.com](mailto:docfeedback@vmware.com)

**VMware, Inc. 3401 Hillview Ave., Palo Alto, CA 94304 [www.vmware.com](http://www.vmware.com)**

**ヴァイムウェア株式会社 テ 105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5 浜松町スクエア 13F TEL: 03-4334-5600 FAX: 03-4334-5601 [www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)**

Copyright © 2009 VMware, Inc. All rights reserved. 本製品は、米国著作権法および米国知的財産法ならびに国際著作権法および国際知的財産法によって保護されています。VMware の製品は、<http://www.vmware.com/go/patents-jp> で示されている 1 つ以上の特許の対象となっています。VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの会社の商標です。

アイテム : JPN-000287-00

---